

被爆79周年

第39回

埼玉県原爆死没者



慰 靈 式

と き 令和6年(2024年)7月28日(日)

午前10時30分より12時30分まで

と ころ さいたま市浦和区岸町7丁目5番14号

さいたま共済会館6階ホール

主 催 埼玉県原爆被害者協議会

協 力 埼玉県原爆死没者慰霊式実行委員会

埼玉県地域婦人会連合会 埼玉県生活協同組合連合会

埼玉県平和運動センター 原水爆禁止埼玉県協議会

他 14 団体

後 援 埼 玉 県 埼玉県教育委員会

さいたま市 さいたま市教育委員会

第39回埼玉県原爆死没者慰霊式 式次第

オープニング

- 1, 開式のことば
- 2, 死没者名簿奉納・会員物故者紹介
- 3, 平和のともしび紹介
- 4, 黙 禱
- 5, 主催者慰霊のことば
- 6, 来賓あいさつ (県知事・さいたま市長)
- 7, 追悼メッセージ披露 (広島市長・長崎市長・日本被団協)
- 8, 来賓あいさつ (国会議員各会派代表・埼玉県議各会派代表・さいたま市議各会派代表)
- 9, 平和の誓い (1) 春日部高校生徒 (2) 秩父ユネスコ協会
- 10, 被爆の証言
- 11, 献花 折り鶴奉納
- 12, 原爆を許すまじ (黙唱)
- 13, 閉式のことば

慰霊碑建立の趣意

昭和20年8月6日と9日に広島、長崎両市で原子爆弾に被爆し、現地で死亡・又は帰郷後に原爆症の後障害で死亡した埼玉県民及び同じく被爆者で戦後、他県から埼玉県に移住して後に死亡した者、更に、埼玉県民で引き取り人のないまま遺骨がまだ現地に留まる者、遺骨もなく広島、長崎の地の下に今も虚しく埋もれる者など、惨苦のうちに世を去られた埼玉の被爆者の御霊に「人類初めての核兵器の犠牲者」に相応しい弔意を捧げ、「二度と被爆者をつくらせぬ」とする被爆者の悲願と核兵器廃絶への県民の決意を後世に遺すため多数有志の方々の御協力をえてここに原爆死没者慰霊碑を建立する

1986年7月12日

埼玉県原爆被爆者団体協議会

(慰霊碑裏面の銘板より)

慰霊のことば

令和6年、第39回埼玉県原爆死没者慰霊式にあたり、主催者を代表して、原子爆弾の犠牲になられた、被爆者の御霊に、慰霊のことばを捧げます。

79年前の広島と長崎に投下された原子爆弾の被害により、亡くなられた数十万に及ぶ方々の無念と願いを受け継ぎ、被爆者は「ふたたび同じ苦しみを地球上の誰にも味わわせないために」核兵器も戦争もない世界の実現と私たちが受けた原爆の被害に対する国の償いを求めてきました。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルのパレスチナガザ壊滅戦争の中、ロシア、イスラエル両政府高官が、核使用の威嚇発言を行い極めて危険な状況にあります。まずふたたび被爆者をつくらないと決意した私たちは、今こそ被爆の実相を語り、原爆は人間に何をしたかを市民社会の皆さんと声をあげましょう。

世界の緊迫した事態に備えるとして、政府は敵基地攻撃能力強化、防衛費大幅増、それを補う財源を社会保障の削減、増税、物価高など国民に負担を強いるものとなります。

岸田内閣は専守防衛を投げ捨て、攻撃手段を先制攻撃に方針転換しています。戦後を戦前にするな。

戦争をしない証しとして定めた憲法、なかでも世界に誇れる憲法9条をもつ私たちは、戦争の愚かさ、核兵器の残酷さ、非人道性を明らかにし、平和の尊さを次の世代に語り継いでいく運動を推進していきます。

被爆者の平均年齢は85歳を超え、病気を抱えながらも先達の運動から学び、重い重い扉を市民社会の人々と押し開け、核兵器禁止条約発効を勝ち取りましたが核兵器廃絶は道なかばです。被爆者運動が次代を担う人々に繋ぐ取り組みを進めます。

結びに、澄み渡る空から私たちの運動を激励する皆さん、そして何よりも慰霊式を支えてくださる、団体個人の皆さんとしっかりと手を携えて、核兵器も戦争もない世界の実現に向け活動を続けますことを御霊にお誓いし、慰霊のことばといたします。

令和6年(2024年)7月28日

埼玉県原爆被害者協議会

会長 原 明 範

埼玉県知事メッセージ

本日、第39回埼玉県原爆死没者慰霊式が挙行されるに当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお、被爆による後遺症に苦しんでおられる方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

さて、世界では今も他国への侵攻や地域紛争が絶えず、人々を苦しめています。一方で、今日の私たちは平和を享受しているものの、戦争を知らない世代が大半を占め、体験と記憶が薄れようとしています。

そのような状況にあって平和への思いを発信するこの慰霊式が開催されていることは、大変大きな意義があると考えております。長年にわたり開催に尽力してこられた埼玉県原爆被害者協議会の皆様に対して、改めて深く敬意を表します。

また、昨年からは、埼玉県庁3階の連絡通路において、高校生が被爆者の証言をもとに描いた絵画の展示会を開催し、次の世代に被爆体験を伝えていく活動にも力を入れておられます。

私も、埼玉県知事として、多くの方々が今なお原子爆弾被爆による健康被害に苦しんでおられる現状に思いを致しながら、被爆者の皆様に寄り添った支援を継続して行うとともに、平和な社会の実現に全力を尽くすことを固くお誓い申し上げます。

結びに、原爆死没者の方々の御冥福を改めてお祈り申し上げますとともに、皆様の御健勝と御平安を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

令和6年(2024年)7月28日

埼玉県知事 大野元裕



さいたま市長メッセージ

第39回埼玉県原爆死没者慰霊式の挙行に際しまして、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げるとともに、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

また、被爆者の援護や核兵器廃絶に向けた活動に日々取り組まれている埼玉県原爆被害者協議会の皆様の尊い志に対し、心から敬意を表します。

広島、長崎への原子爆弾の投下から、まもなく79年が経とうとしています。戦争の記憶の風化が強く懸念されるなか、あの悲惨な体験の「記憶」と平和の尊さを、次代を担う子どもたちへ継承していくことは、私たちに課せられた責務です。

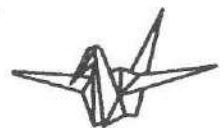
私たちが今享受している平和と繁栄は、命を落とされた方々の尊い犠牲と苦難の歴史の上にあります。このことを、改めて深く胸に刻みながら、戦争の惨禍を二度と繰り返さないために、不断の努力を重ねていかなければなりません。

本市におきましても、さいたま市平和展や、埼玉県原爆被害者協議会の皆様の協力を得て作成した、被爆体験者証言映像などを通じ、我が国の戦争の体験を後世に伝え、核兵器廃絶と世界の恒久平和実現に貢献するべく尽力してまいります。

結びに、原子爆弾の犠牲となられた方々の御冥福と、御遺族、被爆者の皆様、並びに御参会の皆様方の御多幸を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

令和6年7月28日

さいたま市長 清水 勇人



広島市長メッセージ

「第39回埼玉県原爆死没者慰霊式」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

埼玉県原爆被害者協議会の皆様におかれましては、本年も「埼玉県原爆死没者慰霊式」を開催し、今日までに原爆のため亡くなられた方々の御霊に哀悼の誠を捧げるとともに、世界中に核廃絶を訴え続けられることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

現下の世界情勢をみると、ウクライナでの戦争は長期化し、中東情勢は混迷を極め、罪もない多くの市民が犠牲になっています。また、多くの為政者が核抑止力拡大の必要性を謳い、世論もそれに理解を示す傾向が見られるなど、これまで長年被爆地が訴え続けてきた平和への願いに逆行するような事態が続いています。

こうした状況の中、本市としては、平和を願う私たちの総意が世界中の為政者の心に届き、武力によらず平和を維持する国際社会が実現する環境を創ることを目指し、引き続き、8,300を超える平和首長会議の加盟都市とのネットワークを最大限に活用しながら、市民レベルでの交流を通して「平和文化」を世界中に広めてまいります。皆様には、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動して下さることを心から期待しています。

終わりに、原爆死没者の御霊に心から哀悼の意を表しますとともに、御参会の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和6年(2024年)7月28日

広島市長 松井 一 實



長崎市長 メッセージ

本日ここに、「第39回埼玉県原爆死没者慰霊式」が開催されるにあたり、被爆地長崎の市民を代表して御挨拶を申し上げます。

まず始めに、広島、長崎で原爆の犠牲となられた方々の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

昭和20年8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により壊滅的な被害を受けました。核兵器の脅威を経験した被爆者の方々は、「世界中の誰にも二度と同じ体験をさせてはならない」との思いから、自らの痛ましい体験を語り伝え、核兵器廃絶を訴えてきました。しかし、世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻が続き、核兵器の使用が示唆されるなど、未だに世界は核兵器の脅威にさらされています。核兵器のリスクから地球と人類を守る唯一の道は「核兵器をなくすこと」に他ならないことを、今こそ世界中の人々が認識しなければなりません。

長崎市では、今年も8月9日に、被爆79周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を執り行います。現下の国際情勢を踏まえ、核兵器のない世界の実現に向けて、国際社会が共通した行動を取る必要があることを、被爆地長崎から世界に向けて、強く発信してまいります。皆様方におかれましても、核兵器廃絶や平和な世界の実現に向けて、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、埼玉県原爆被害者協議会の皆様をはじめ、関係者の方々及び本日御臨席の皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、私のメッセージいたします。

令和6年(2024年)7月28日

長崎市長 鈴木 史朗



第39回埼玉県原爆死没者慰霊式 御中

ご あ い さ つ

ご遺族をはじめ、ご参列のみなさま
原爆によって命を奪われた方々に、ふかく追悼の意を表しますとともに、お集まりのみなさま
に心からのごあいさつを申し上げます。

1945年8月6日と9日、人類最初の原子爆弾投下によって作りだされた「あの日」
の地獄。人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許さない原爆被害に抗（あらが）
って、わたしたちはこの79年という歳月を生きてきました。年を追うごとにいっそう鮮明
に、そしてより深く刻まれていく記憶に、原爆に殺された肉親、友人、仲間たちの無念の思
いを重ねて、ふたたび被爆者をつくるな、核兵器をなくせと、運動を続けてまいりました。

原爆被害への国家補償も、核兵器廃絶も、いまだ実現していません。

戦争被害への受忍論を国民に押し付け、原爆被害への国家補償を拒み続けている日本政府
は、核兵器禁止条約にも背を向けています。

しかし、核兵器禁止条約が発効し、批准する国が増え続けていることに力を得て、私たち
は更に運動を強める決意です。

日本政府は依然として核兵器禁止条約に背を向けています。原爆被害への国家補償を拒み続け
ていることと合わせ、許すことはできません。

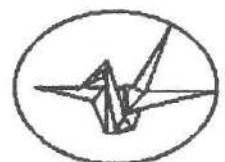
原爆と同じ核エネルギーを利用した原発も、国民の安全を確保するためにはゼロをめざすし
かありません。

遠い空から私たちの運動を見守っておられるみなさん

私たちは、一日でも長く生きて、原爆被害への国家補償と核兵器廃絶を必ずや勝ち取るこ
とを、ここに固くお誓い申し上げます。

2024年7月28日

日本原水爆被害者団体協議会



平和の誓い (1)

本日は原爆死没者慰霊式典という特別な場で、ご参列の皆様の前で貴重なお時間を頂き、お話し
の機会を賜りました事を光栄に思います。

我々は実際に戦争・原爆投下の時代を生きた訳ではありません。しかしながら、その惨状は平和
学習の過程で何度も触れてきました。そして絶対に繰り返してはいけないものだとして認識しています。

今日の世界では未だ戦争や紛争は絶える事なく、核兵器の撤廃も成されていません。しかし、今の
日本の日常は少なくともそういった事をあまり感じさせない様な平和な環境にあるように思えます。
過ぎていく日常をただ生きているだけでは、明るい日の光の下で晴れ渡る空を眺める日を迎えられる
ことが当たり前だとさえ感じられるかもしれません。

私は昨年冬に修学旅行で実際に広島・平和記念公園に赴き、平和学習という形で当時のまま残
されている貴重な資料や原爆とその被害について詳細に記載された文献の数々に触れました。爆弾
が落とされたタイミングでの痛切な市民の様子や被曝後の後遺症に苦しむ様子が、実際にその場に
居合わせたかのように鮮烈に感じられました。また当時、平和学習の過程で読んでいた小説
『黒い雨』では、被曝によりその後の人間関係に大きな支障をきたし、人生に暗い影を落としてい
る人の物語にも出会いました。

そして、実際に被曝の現地で感じた率直な感想は

「言葉が出ない」

というものでした。月並みな言葉かもしれませんが、今までの自分にとって印刷された過去の事実
だったものが一気に現実味を帯びて、当時の様相を想起させました。

全身が焼け爛れ水を求め川に溺れゆく人々・親の名を呼び泣き叫ぶ子ども、子どもの名前を呼び
必死に探し回る親。それらの人が無数に行きかう様子・失意の中佇み、抜け落ちる髪を眺める人・焼け
落ちボロボロになった町中で行われる火葬の異様な匂い・原爆の閃光により影だけが残った人・
被曝し後遺症の苦悩を抱える人々

あまりに凄惨な実情に絶句し足が竦んだのを鮮明に覚えています。

同時にこの原子爆弾の歴史は確実に断ち切り、同じ轍を踏む状態を生み出してはならないと強く
感じました。

私たちの四肢はその手足で生み出した物で誰かを傷つけたりするものではないはずだし、私たち
には頭脳とそれに伴う口があるのだから、争いを言葉で解消できるはずです。綺麗事と思われるか
もしれませんが、自分達が優位に立つために多数の犠牲を払ってきた歴史を繰り返さないため
には、理想や綺麗事を実現するために他との 調和を図り、現実には近づける努力を怠ってはいけ
ないのだと思います。

そして、この誓いの言葉をいち高校生の発言として終わらせるのではなく、今後の国際社会に
おける自分のすべき文字通りの「宣誓」として胸に刻み生きていこうと思います。

最後に、原爆死没者及びその遺族の方々・関係者の方々に心より哀悼の意を示しまして、私の
言葉と致します。

埼玉県立春日部高等学校 3年 細谷周平

平和の誓い (2)

本日は、第39回埼玉県原爆死没者慰霊式にお招き頂きありがとうございます。

「平和」とは何か。(これは、去年、私が平和学習をするにあたって考えてきた質問でもあり、ここにいる多くの方がこのようなことを一度は考えてみたことがあるのではないのでしょうか。)平和といっても、多くの意味が込められていて、戦争が起これないこと、核が廃絶されること、治安が守られていること、貧困や飢饉がなくなること、人間にとって最低限の生活を送れること、家族と一緒に過ごすことなど。様々な意味の中で「平和」をどう捉えるかは人それぞれだと思いますが、私にとっての平和は「当たり前のように過ごしている日常が続くこと」です。

1945年8月6日8時15分広島に、8月9日11時2分長崎に、原爆が落とされました。たった一つの原爆によって、町は炎に包まれ、一瞬にして何十万人の命が奪われました。また、原爆は無差別に、無慈悲に大量殺戮(さつりく)を行っただけではありません。生き残った人々の社会生活そのものが失われ、被爆した多くの方が放射線による後遺症を長期間に渡り、苦しみ続けました。私たちは2020年から流行している新型コロナウイルスによって、多くの学校行事や当たり前だった生活が奪われ、やるせない気持ちになりました。しかし、この原爆は人為的に起こったことであり、被災者の人々の心情は、私たちの想像など及ばぬ程であったと思います。しかし、そのような惨劇を乗り越え、今、私たちの世代が無事に過ごせているのは、私たちの上の世代が、この原爆の悲惨さを伝え、二度と当たり前とされていた日常を失ってはならないと、守り続けたからだだと思います。

しかし、私、ひいては日本だけが平和なのは、果たして本当の平和と呼べるのでしょうか。今、世界ではウクライナ侵攻やパレスチナ問題が起こっていたり、さらには国同士で緊張状態にあたりして、たとえ日本では戦争が昔話のようなものになっていたとしても、世界のどこかでは今も起こっています。そして、近年では核武装についても話題となってきており、二度と原爆のような悲劇を起こさない為に、平和は個人だけではなく国、世界全体として実現していかなければなりません。そんな平和な世界の実現は誰か1人で達成できるものではなく、必ず、日本を超えて世界すべての人の協力が不可欠です。そして、その協力に向けて、まずは、一人ひとりが実現に向けて相手の気持ちや違いなどを理解し、行動していかなければならないと考えます。また、そうすることで他国との信頼関係を築き、核廃絶、世界すべての人々が幸せと思えるような社会の実現が達成できると信じています。

その実現への一歩として上の世代が受け継いでくれた、二度と戦争を起こしてはならない、過去の過ちを繰り返さない、という思いによって、私たちの世代が当たり前のように何の不自由もなく平和な日常を過ごしていることに感謝すること。その思いを戦争や被爆の悲惨さと共に次世代に引き継ぎ、平和な日常を守り続けること。そして他国の人々の気持ちや価値観の違いを理解し合い、世界全体で平和な実現に向けて、努力していくことをここに宣言します。

最後になりますが、原子爆弾によって命を落とされた方々に深く哀悼の意を表するとともに、若い世代を代表し、平和への願いと決意とさせていただきます。

埼玉県立春日部高等学校 3年 柴山翔太郎

平和の誓い (秩父ユネスコ協会)

亀倉詩音

私は春休みに、第五福竜丸展示館と焼津での全国高校生平和集会に参加して来ました。参加してみても、第五福竜丸についてや、ビキニ事件についてたくさんを知ることができました。核問題についてよくよく学ぶことが出来た3日間だと思いました。ビキニ事件では、私は第五福竜丸の乗組員だけが被害にあったと思っていましたが、他の漁船や、実験所にいた人、マーシャル諸島のビキニ環礁に住んでいた28名など、たくさんの人々が被害にあったことをしりました。

また、子供が降ってきた死の灰をだれが一番に取れるか競争して被害にあったことに、とても驚きました。

この3日間の活動を通して「平和とは何か」「原爆や水爆などの核兵器がどれほど危険なものか」などを考え直すことが出来たのでよかったです。

河野芽衣美

最終日の分科会で、焼津を尋ねる全国からの平和探訪のガイド役を務めた成瀬さんという方の話を聞きました。当時の情景や悲惨さ、被爆者の遺族の叫びや実態を教わりました。「終わったことにはしてはいけない、もう二度と起こしては行けない」という強い気持ちが、話を聞いていて伝わりました。他にも、「若者にはもっと学習の起点、動機を強くもってほしい」ということや、「なぜ? どうして?」の気持ちをもってほしい、という言葉が印象に残りました。

三日間の平和集会を通して、私たちが普通に暮らしては関わることの無い貴重なお話を聞きました。今回、本当に貴重な体験談や講演を聞いて、学んだことをそのまま自分の中で覚えているだけでなく、周りにも伝えて、どんどん次の世代に広め、被爆者の被曝の時の苦しみを忘れないようにしていきたいです。

下地さくら

私は今年8月4日から6日に開かれる広島ピースツアーに参加することになりました。メインは全国高校生平和集会と原水禁世界大会への参加です。参加するきっかけは、母から勧められ参加することにしました。母と叔父も平和ゼミの活動に参加していて、私も興味があり参加することにしました。

私は去年、父が沖縄出身ということもあり、沖縄に戻った時に南城市の系数アブチラガマとひめゆり資料館に行き、実際にガマに入りました。こんな暗い中に入られたのかな? 怖かったのかな? 自分ならここに入られたかなと思いました。私は戦争のことについて、学校の授業やテレビなどでしか観てこなかったのも、あまり興味がなかったけれど、広島のピースツアーに行くので、被爆の実態や被爆者のことなどを、もう少し詳しく調べて行きたいです。

原爆を許すまじ

1、ふるさとの街やかれ

身よりの骨うめし焼土に

今は白い花咲く

ああ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

われらの街に

2、ふるさとの海荒れて

黒き雨喜びの日はなく

今は舟に人もなし

ああ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

われらの海に



3、ふるさとの空重く

黒き雲今日も大地おおい

今は空に陽もささず

ああ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

われらの空に

4、はらからのたえまなき

労働にきずきあぐ富と幸

今はすべてついで去らん

ああ許すまじ原爆を

三度許すまじ原爆を

世界の上に



埼玉県原爆死没者慰霊碑建立の経緯

被爆40周年を記念して、埼玉県出身で広島・長崎の地であるいは、埼玉県に移り住んで亡くなった方々の慰霊と、決して再び被爆者をつくらせてはならないとの決意を込めて昭和61年（1986年）7月12日、県知事、全市町村の首長、各級地方議員の皆さんや、あらゆるつながりの伝をたより、2000名を越える県民有志からの397万4625円もの浄財により、当時の県立別所沼公園（現・さいたま市公園緑地協会）に

埼玉県知事の了解と指示により建立される。

（『原爆許すまじ 第3集』より抜粋）